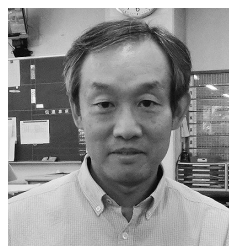


特集2 副教材 活用法

私の『学習ノート』活用法

宮崎 哲生



本校には総合進学コースと特別進学コースがあり、生徒の進学先もさまざまです。部活動も活発でインターハイの常連校でもあります。英語科の教員17名の思いは、「いかにして生徒に英語に興味を持たせるか？」ということで、特に教科書については生徒が興味・関心を持つような題材が重要だと感じています。

本校では『学習ノート』を、学習内容の復習だけでなく、授業中の活動にも活用しています。まず、「単語」の問題は、パート毎に単語を調べた後に、意味をしっかりと理解しているか確認するために取り組ませています。教科書では取り扱われていない用法も同時に掲載されており、単語の様々な語法に触れさせることができます。例えば、教科書では“I'll miss you so much.”と「～がいなくてさみしい」という意味の miss が出ていましたが、『学習ノート』では“Takuya missed a chance to go to Canada.”という「のがす」という意味の文も載っています。様々な機会に単語の異なった意味に触れさせることにより、定着しやすい構成になっています。また、Lesson 毎のまとめでは、単語の定義が英語で説明されており、その定義に当てはまる単語を選ぶ出題形式になっているため、単語の意味を英語で考えさせる機会が増えると同時に、それにまつわる類義語も身につけることができます。私は英単語はそれ単体で学ぶのではなく、文全体で学ぶことを生徒に日頃から指導していますので、そういう点でも『学習ノート』の「単語」は、非常に役に立ちます。

「文法」でも、文法に関する質問に焦点を合わ

せるのではなく、文単位で語句整序や空所補充問題が出題されています。英語はやはり文全体で覚えると、たとえ完璧な英文が作れなくても、どうか自分なりに英作文しようとする気持ちにつながります。また、語句整序問題の場合、センター式に記号で答える形式ではなく、英文をすべて書かせる形式になっているため、重要なところも含めて生徒に英文に接する機会を与えられます。さらに、和訳がついているためそれがヒントになり、たとえ英語を得意としていない生徒たちでも取り組もうとする姿勢が見られます。

「表現」については、実用的な英語表現が多く含まれているため、単語単位ではなく文全体で覚えさせておくと、実際にコミュニケーションで役立つものが多いと思います。生徒たちに覚えさせたい英文を「表現」の中から3～5文ピックアップし、コーラスリーディングやペアワークによって丸ごと暗記するように指導しています。

英語は学問ではなく言語であるため、基本がしっかりと定着したあとは、ある意味「習うより慣れろ」が当てはまる部分もあると感じています。「内容理解」を指導する上で私が重点を置いていることは、自分の声で発音して自分の声を耳で確かめながら英文を覚えることです。「内容理解」に取り組むにあたりもう一度教科書を開かせて、内容を頭の中で思い浮かべながら3回音読をするように、生徒に指示を出します。その後、「内容理解」に取り組ませると、スムーズに解答することができます。

(みやざき てつお・東海大学菅生高等学校教諭)